

岐阜県の自然環境の概要

(1) 位置

岐阜県は本州のほぼ中央に位置し、海を持たない内陸県であるが、標高0mの低海拔地から3,000mをこえる山岳地まで変化に富んだ多様な自然環境からなっている。

県の北部及び東部の大部分は山地で、東部は長野県に広く接しておりその多くが飛騨山脈で、北部には奥穂高岳、槍ヶ岳など北アルプスを代表する山々が連なっている。また、その南には乗鞍岳・御嶽山等の火山があり、恵那山を経て愛知県境付近に広がる東濃丘陵山地につながっている。

西部県境の北部は両白山地で、白山から高度を減じながら滋賀県境の能郷白山、伊吹山を経て三重県北部に連なる鈴鹿山脈に続いている。南部は北部と対照的に濃尾平野の一部である美濃平野が広がっている。

(2) 気候

本県の北部山間部の飛騨地方と南部平野部の美濃地方とでは、対照的な自然と風土の違いがある。

飛騨地方や奥美濃地方は標高1,000~3,000mの山が連なるため、内陸性気候区に属し、気温の較差（最高気温と最低気温の差）が大きく、夏季は冷涼だが冬季は寒冷で日本海を渡る北西季節風が雪を降らせるため積雪量が多い地域である。

美濃地方の平野は太平洋側の海洋性気候の影響を受け、気温の格差も少なく比較的温暖で、夏季は南東季節風が山岳に衝突して雨を降らせるため多雨である。位山分水嶺山地付近の北と南とでは気温の変化が非常に大きい。

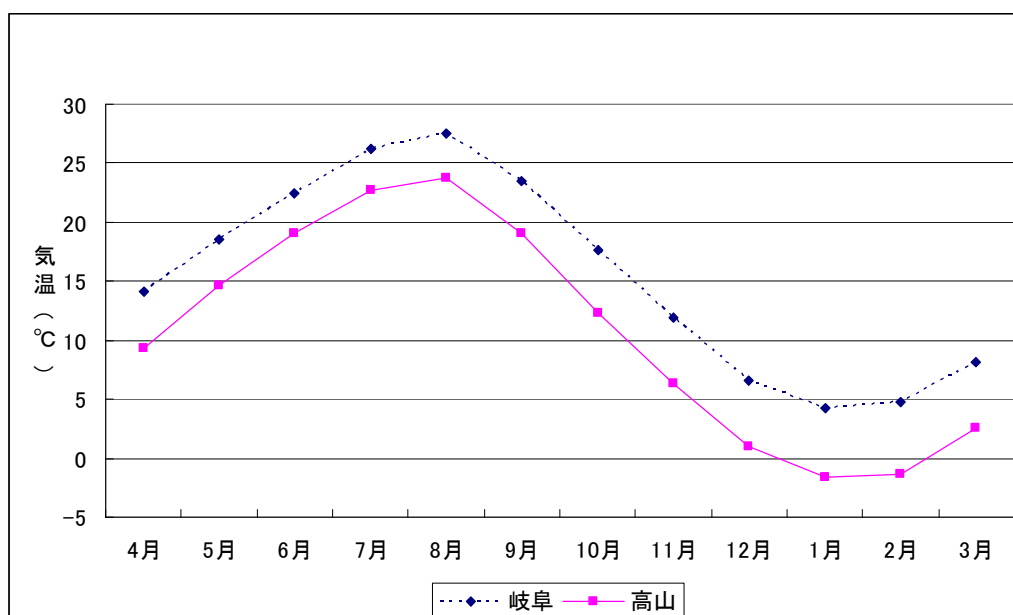


図1 月別平均気温

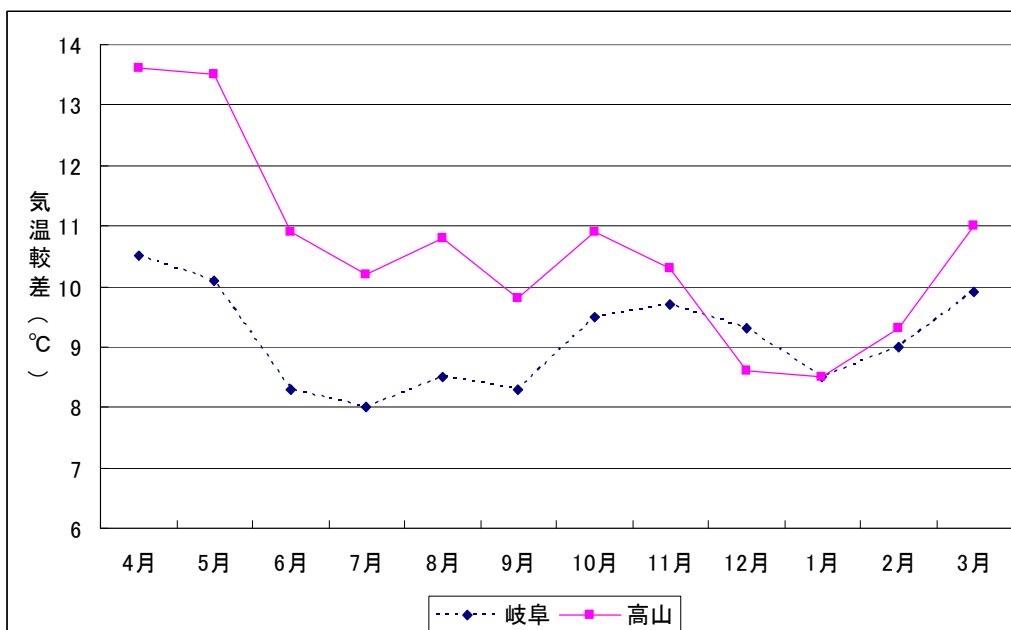


図2 月別の気温の較差

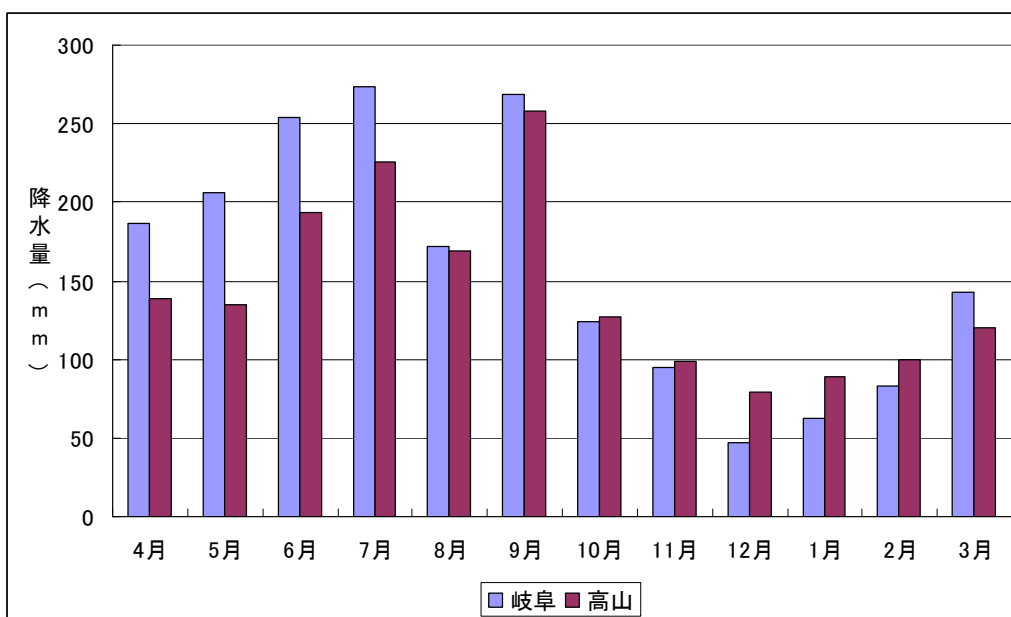


図3 月別平均年降水量

※ 岐阜は岐阜地方气象台、高山は高山測候所の観測資料より作成した。
 年平均値は1971年から2000年までの平均値による。
 月別の気温の較差は、日最高気温の月別平均値及び日最低気温の月別平均値を使用して作成した。

(3) 地 形

本県東部の県境には飛驒山脈から南へ、阿寺山地・木曾山脈があり、西部の県境には両白山地、伊吹山地、養老山地、鈴鹿山脈がある。この東西両県境にある山脈や山地に挟まれて飛驒高地があり、その南へ美濃山地が続いて南東部では三河高原へと連なり、高度を減じて美濃平野へ移行している。

○ 飛驒地域

飛驒山脈は槍ヶ岳、奥穂高岳など県境に連なる高山を軸とした傾動地塊で、南部には焼岳、乗鞍岳、御嶽山などの火山を有する。

石川県境には標高 1,800m内外の峰が続き、白山などの火山が分布する。

飛驒高地は標高 1,000～1,500mの山地が分布しており、中央部には飛驒高地の隆起によって生じた侵食谷を埋積してできた高山盆地・古川盆地・上宝盆地があり、上宝盆地には高原川の侵食により生じた数段の河岸段丘が発達している。

○ 中濃・東濃地域

標高 1,000m以下の低山性の美濃山地が広く横たわり、木曾川と飛驒川が合流する美濃加茂地方では盆地を作り、河岸段丘がよく発達している。北西へは両白山地から伊吹山地に連なる外、南東部では標高 500m内外の三河高原に接し、東部では標高 1,700m内外の阿寺山地と接する。坂下町から北北西に阿寺断層がのび、断層崖の高度差は 600m内外ある。

○ 岐阜・西濃地域

西濃山地の北部は、県境に 1,400m内外の山を連ねて美濃越前山地に接している。美濃山地の南部には伊吹山地、養老山地、鈴鹿山脈がある。

美濃平野は木曾川・長良川・揖斐川などの河川が運んできた土砂を埋積してできた濃尾平野の木曾川以西の部分である。この平野の多くは扇状地で河川の流路が平野に出た所と山麓に分布している。扇状地地帯から下流は自然堤防と後背湿地が混在する地域で、河川が網状に存在し、海拔 0 mの水郷地帯には堤防で囲った輪中も見られる。なお、養老山地の急崖にできた扇状地の末端には「ガマ」と呼ばれる湧泉地帯がある。

(4) 地 質

本県の東側にはフォッサマグナがあり、これを境に我が国は東北日本と西南日本とに分けられる。さらに西南日本は中央構造線を境として北側の内帯と南側の外帯とに分けられ、本県は西南日本内帯の東端に位置する。

本県における地質構造は、以下に示す 4 つに区分される。

○ 飛驒帯

岐阜県北部の飛驒市内の河合町、宮川町、神岡町などに分布する飛驒変成岩は、日

本列島の中でも古い岩石（4億年前以前）の一つとされており、これを取り巻いている船津花崗岩類（1億8千万年前）も古い花崗岩として有名である。

○ 飛騨外縁帯

飛騨帯を取り巻く幅数 km の狭い地帯は飛騨外縁帯と呼ばれ、古生層が分布している。また、これらに接している槍ヶ岳、高山市北部、高山市清見町楢谷付近などは断層運動で地下深部から上昇してきた結晶片岩や蛇紋岩が分布している。

○ 美濃帯

飛騨外縁帯の南側には古生代末期から中世代の中頃までに海で堆積した砂岩、泥岩、チャート、石灰岩、緑色岩からなる地層が広く分布している。

○ 領家帯

多治見市と岩村町を結んだ線の南側には領家花崗岩が分布するほか中古生層起源の変成岩が分布している。

（5）河 川

本県の河川は、乗鞍岳、位山、大日ヶ岳を東西に結ぶ線が分水界となり、これを境に日本海側と太平洋側に注ぐものと二分されている。

日本海側に注ぐものとしては、九頭竜川水系及び富山湾に注ぐ神通川水系と庄川水系があり、太平洋側では伊勢湾に注ぐ木曾川水系と庄内川水系、三河湾に注ぐ矢作川水系がある。

木曾川水系は、長野県の鉢盛山を源流とする木曾川、大日ヶ岳に源を発する長良川、冠山を源流とする揖斐川の3水系からなり「木曾三川」と総称されている。その流域は美濃地方のほぼ全部と飛騨地方の一部が入り、その面積は7,171 k m²で県土の約68%を占めている。

庄内川(土岐川)水系は、源流を恵那市夕立山に発し、愛知県に入って庄内川となる。県内の流域面積は430 k m²で県土の約4%に当たる。また、矢作川水系は、源流を長野県の大川入山に発し、本県を經由して愛知県に流れ込む。県内の流域面積は240 k m²で県土の約2%に当たる。

神通川(宮川)水系は、分水嶺をなす川上岳を源流とする宮川として北へ流下し、富山県に入って神通川となって富山湾に注いでいる。流域面積は1,980 k m²で県土の約19%にあたる。庄川水系は、鳥帽子岳に源を発して北に流下し、富山県に入り富山湾に注いでいる。本県内の流域面積は725 k m²で県土の約7%にあたる。九頭竜川水系は、県内では支川である石徹白川の流域となっており、福井県に入って九頭竜川に合流して日本海に注いでいる。本県内の流域面積は75 k m²で県土の1%にも満たない。



岐阜県の流域図

表1 岐阜県の流域構成

水系名	流域面積 km ²	構成比率 %	河川数	河川延長 m	主要支川
木曾川	7,171	67.5	297	2,352,440	
木曾川	3,386	31.9	131	1,042,151	飛騨川
揖斐川	1,800	16.9	74	578,853	牧田川、根尾川
長良川	1,985	18.7	92	731,436	板取川
庄内川（土岐川）	430	4.0	35	177,758	
矢作川	240	2.3	22	108,484	上村川
神通川（宮川）	1,980	18.6	48	478,692	高原川、小鳥（おどり）川
庄川	725	6.8	32	198,676	大白川、尾上郷川
九頭竜川	75	0.7	2	9,000	石徹白（いとしろ）川
合計	10,621	100.0	436	3,325,050	

※ 流域面積は本県分

※ 平成22年6月1日現在

(6) 植 生

本県は標高 0 m の低海拔地から標高 3,000m の山岳地に及び、暖地性から寒地性まで変化に富んだ豊かな植生が見られる。

本県南部の平野部は暖温帯に属し、自然植生としてシイ・カシなど常緑広葉樹林が成立するヤブツバキクラス域となっている。しかし、土地利用が進んだ地域でもあり、その多くはアカマツ林やコナラ林に代表される代償植生となっている。

平野部から山地に入り高度を増すに伴い、冷温帯、亜寒帯、寒帯に移行し、植生はそれぞれ落葉広葉樹林、亜高山針葉樹林、高山植生へと変わっていく。

表 2 中部地方の垂直分布帯

垂 直 分 布 (標高)	気 候 帯	水 平 分 布
高 山 帯 (2,400±100m～)	寒 帯	低 木 林
亜 高 山 帯 (1,500～2,400±100m)	亜 寒 帯	常 緑 針 葉 樹 林
山 地 帯 (低 山 帯) (600～1,500±100m)	冷 温 帯 (温 帯)	落 葉 広 葉 樹 林
丘 陵 帯 (0～600±100m)	暖 温 帯 (暖 帯)	照 葉 樹 林

落葉広葉樹林はブナに代表される樹林で、本県の山地の多くはこの樹林帯に属するが、人工林化の進展等により分布は狭められている。

亜高山帯にはコメツガ、トウヒ、シラビソを主とする針葉樹林が成り立ち、高山帯への移行帯には落葉広葉樹低木からなるダケカンバ帯が発達している。特に、白山山系は、日本海側気候の影響を強く受けた多雪地帯であり、ダケカンバを主体とする落葉広葉樹林が多い。なお、白山山系にはブナの原生林が多く残っている。

標高約 2,400m 以上の高山帯では、ハイマツがよく発達している。また、高山草原も各所で見られ、コマクサ、クロユリ、チングルマ、イワギキョウなどが豊富で、日本の分布の西限となるものも多い。

森林面積は約 8,634 k m² で、県土面積に占める比率は約 81.3% となっている。このうち、国有林は 1,806 k m² で、民有林のうち人工林は約 3,075 k m² で、そのうちの 93% をスギ、ヒノキが占めており、東濃地方から飛騨地方にかけて、良質のヒノキ材を生産する人工林が広がっている。他方、天然林は約 3,562 k m² で、そのうちの約 83% が広葉樹である。

なお、本県では、貴重な自然環境を恒久的に保全しつつ適切な持続的活用を図るため 15 地域を県立自然公園として指定しており、その面積は国立・国定公園を含めると県土面積の約 18% に当たる計 19 地域、1,951 k m² となっている。また、自然環境を保全することが特に必要な地域を県自然環境保全地域、良好な生活環境の維持に役立つ地域を緑地環境保全地域として、あわせて 32 地域 36 k m² を指定しており、優れた自然環境の保全に努めている。